



子どもの放課後の居場所について

令和 8 年 3 月 16 日

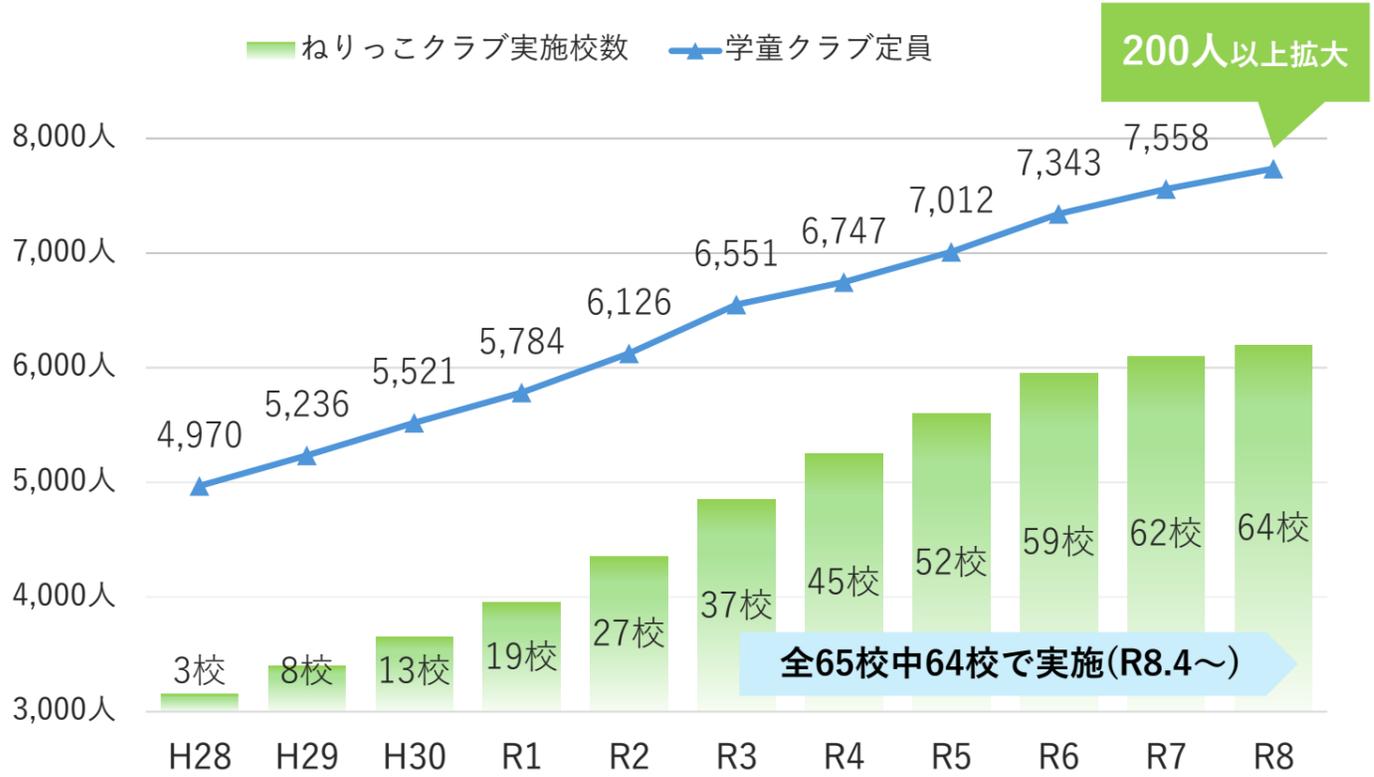
こども家庭部こども施策企画課

1 区のこれまでの取組

1 ねりっこクラブ実施校の拡大

●学童クラブの校内化を進めるとともに、「学童クラブ」と「ひろば事業」それぞれの機能や特色を維持しながら事業運営を一体的に行う「ねりっこクラブ」の早期全校実施を目指し、学童クラブの定員を拡大。

平成28年度から10年間で定員2,700人以上を拡大



【区立学童クラブ在籍・待機児童数の推移】 (人)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
在籍児童数	4,623	4,921	5,135	5,440	5,735	6,088	6,200	6,433	6,691	6,936
待機児童数	289	340	331	366	387	275	273	299	164	51

3年で待機児童248人減少

2 ねりっこプラスの実施、ランドセル来館事業の充実

- 学童クラブの待機児童を対象として、ひろば事業終了後のひろば室で学童クラブに準じた保育を行う、区独自の待機児童対策「ねりっこプラス」を実施
- 児童館に専任職員を配置して、待機児童の来館確認を行う「ランドセル来館事業」を実施

3 学童クラブ、ひろば事業の充実

- 夏休みなどの長期休業中の区立学童クラブで、保護者の希望に応じて、入会児童の昼食を配達するサービスを開始
- 全小学校で実施する「ひろば事業」で、1年生の利用開始時期を5月から4月に前倒しして実施。また、一部の学校で午後4時半までとしている冬の実施時間を年間を通じて午後5時まで実施

4 児童館機能の充実

- 4館で指定管理者制度を導入し、日曜・祝日および平日夜間の利用を拡大
- 令和2年度から全17児童館で、中高生が気軽に悩みを話したり、様々な相談ができる「中高生カフェ」を実施
- 令和5年度から児童館職員が中学校や高校に出向く、出前中高生カフェを実施



▲工作活動

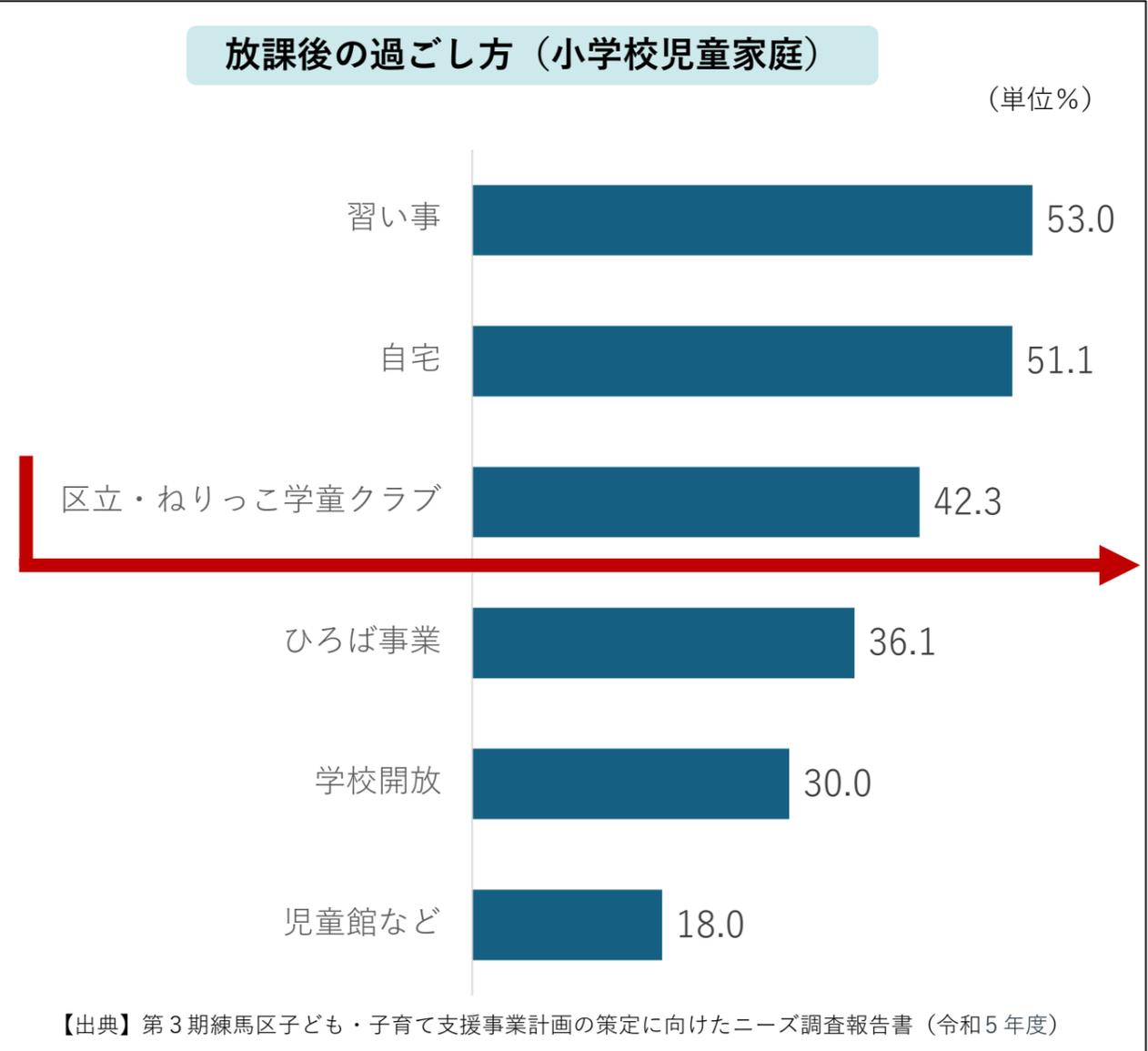


▲中高生のバンド活動



2 今後の取組と課題

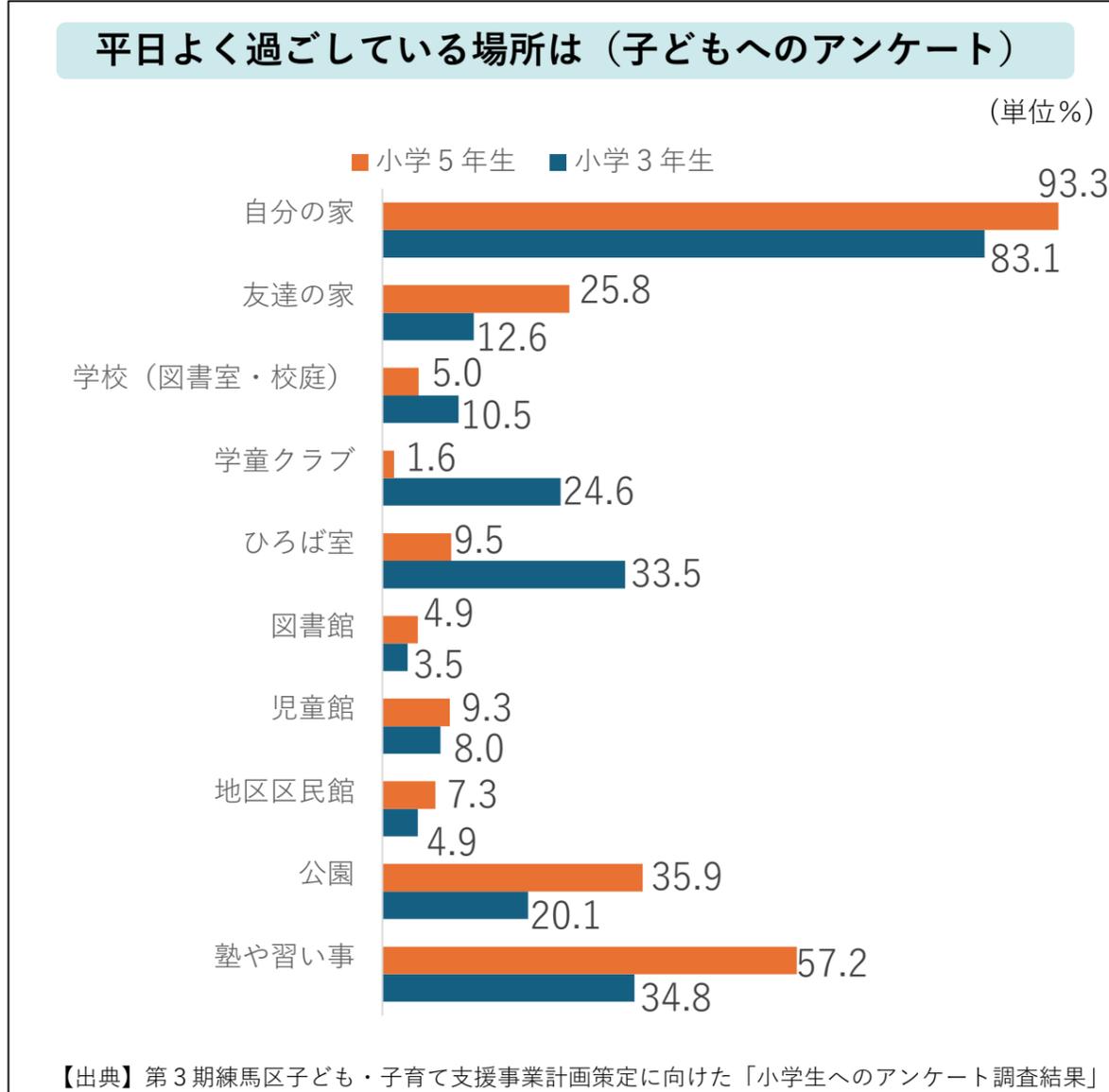
●子どもの居場所は成長段階に合わせて多様に。放課後の居場所は学童クラブに限らない。



学年別内訳

1年生	54.1%
2年生	44.0%
3年生	32.9%

学年が上がるにつれ、子どもたちは様々な居場所で過ごしている



放課後の居場所における今後の取組と課題

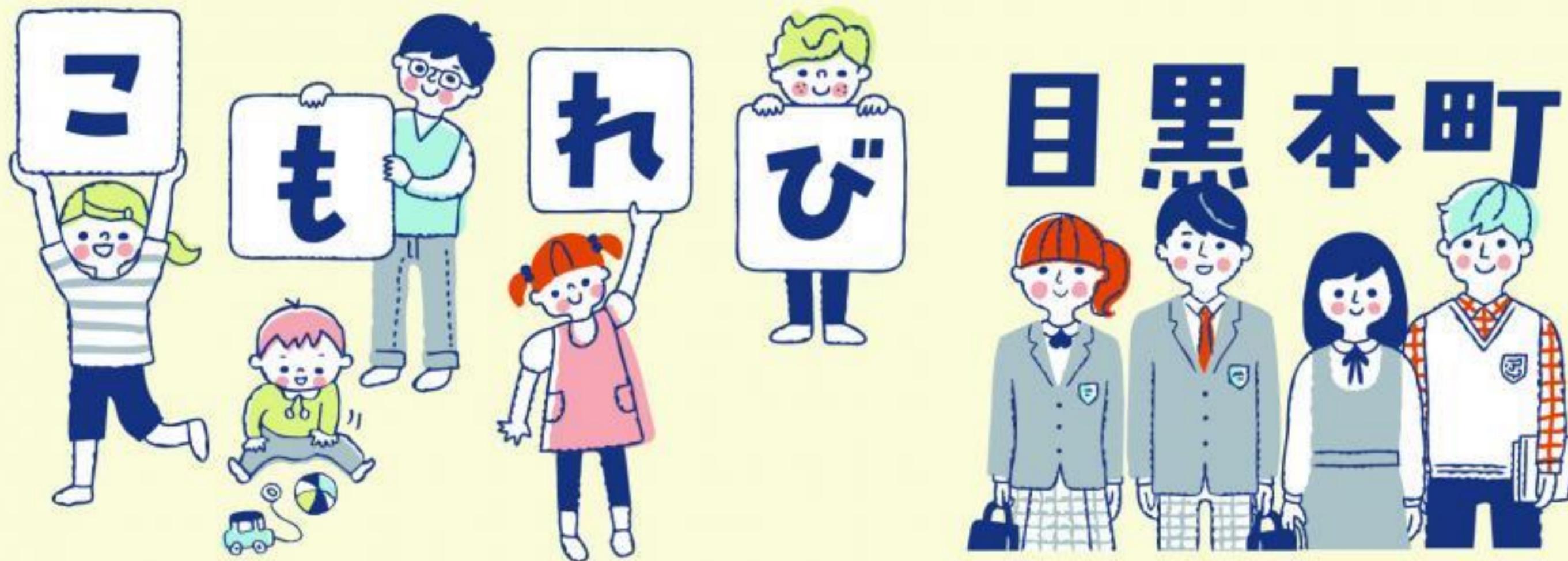
- 令和8年4月、新たに2校でねりっこクラブの運営を開始（全65校中64校）。
- 学童クラブの質の向上を図るため、新たに運営を開始する2校の学童クラブは「東京都認証学童クラブ」の認証を取得
- すべてのねりっこひろばで、年間を通じて午後5時まで実施
- 令和8年4月、北大泉児童館と北町児童館に指定管理者制度を導入し、開館日の拡大や中高生の利用時間を午後7時まで延長

課題 子どもの放課後の居場所は、学年や家庭の状況によって異なる。子育て世代の多様なニーズに対応できるよう、ひろばや児童館、地区区民館など、児童機能を持つ施設全体で今後のあり方を検討する必要がある。

(参考) 他自治体の取組事例

目黒区 新しい子どもの居場所「こもれび目黒本町」
(<https://www.city.meguro.tokyo.jp/houkago/kosodatekyouiku/kosodate/kodomoibasho.html>)

乳幼児とその保護者の交流の場「子育てふれあいひろば」と、18歳までの子どもが自由に過ごせる場「みんなのひろば」をタイムシェア（同じ場所で時間帯を区切って実施する手法）により一体的に実施する新しい子どもの居場所「こもれび目黒本町」が令和8年1月19日に開所。



(参考) 他自治体の取組事例

豊島区 豊島区立中高生センター「ジャンプ」

(<https://www.city.toshima.lg.jp/256/kosodate/kosodate/hokago/1502161607.html>)

豊島区の中高生センターは区内2か所（東池袋、長崎）にあります。ジャンプ東池袋はバスケットができる屋上や、卓球やダンスなどができるスペースがあります。ジャンプ長崎は広い音楽スタジオが2つあり、使いやすいクッキングスタジオもあります。なおジャンプでは、中高生の悩みや課題に寄り添とともに、若者の相談事業も行っています。

豊島区立中高生センター

ジャンプ東池袋&長崎



そうだ、

ジャンプへ行こう。

